

夏休み講座

平成24年8月4日(土) 9:30~ 弦打コミュニティセンター

親子で作る竹とんぼ

「親子で作る竹とんぼ」がありました。対象は小学生と保護者。講師は地元在住の植本多寿美さんと川崎正視さん。途中、ほかにも地元の方が様子を見に来てくださいました。

竹とんぼを作る前に、子どもたちがナイフに慣れるため、鉛筆を削ってみました。みんなが鉛筆削りが出来るようになったところで、竹とんぼ作りを開始。

川崎さんが提供してくれた竹を使いました。植本さんがある程度まで加工してくれましたが、削ったりキリで穴を開けたり組み立てたり、細かい所は子どもたちが各自で挑戦です。



平成24年8月11日(土) 9:30~ 弦打コミュニティセンター

弦打小学校家庭教育学級

弦打小学校家庭教育学級主催で、「親子工作教室～自然素材を使った工作～」がありました。講師はNPO法人どんぐりネットワークの木村晃子先生。夏休みの子どもたちと保護者が43人参加し、どんぐりや木の枝等、自然にある材料を使ってイメージするものを集中して作っていました。



その他行事

平成24年6月20日(水)

小学校・幼稚園・保育所 合同田植え

毎年、太田さんのご指導の元、田植えを体験しています。



平成24年8月23日(木) 13:30~ 弦打コミュニティセンター

親子チャレンジ教室(乾電池)

「親子手作り乾電池教室」がありました。講師は東芝ホームアプライアンスの兼城泰行さんと山根徳三さん。

まずは電池に関することをDVDと講話で学習しました。身近にある電池ですが、正しい取扱いの説明を受けると知らなかったことがたくさんありました。



平成24年7月28日(土) 9:30~ 弦打コミュニティセンター

親子すこやか料理教室

「食生活改善推進員」さんの指導で、親子すこやか料理教室が開催され、生き生きと料理に取り組みました。

メニューは、夏野菜のカレーライス、夏野菜ディップ、果物、べっこうあめ。お母さんだけでなく、お父さんの参加もありました。



平成24年10月6日(土)

幼稚園運動会



編集後記

広報つるうち 写真特集 第4号発刊について

今年度は新たに部会員が入り、その中から編集委員を選出し、慣れない編集作業にあたりました。各種団体・各部会の皆様のご協力のおかげで、たくさんの写真・記事が寄せられましたが、一部掲載できないものもあつたことをお詫びします。これからも、できるだけ皆さんの行事を紹介していきたいと考えていますので、写真・記事の提供をお願いします。

【弦打校区コミュニティ協議会 総務広報部会】

つるうち 広報 第4号

写真特集

2013

1

発行：弦打校区コミュニティ協議会 TEL.882-0285

つるうち.ネット <http://www.tsuruuchi.net/>

平成25年1月号

弦打地区の人口(平成24年12月1日現在) 合計10,527人 男5,205人 女5,322人 世帯4,763世帯

いきいき人生

～輝くシルバー世代～ 第2回



諏訪 ユリ子さん(85歳)

鶴市町

【プロフィール】

太平洋戦争の最中、看護師として兵庫県立病院に奉職して4年間、その後、高松に帰郷し、23歳のときに四国鉄道病院(国鉄)に再就職して、退職するまでの35年間、看護師兼助産師として医療現場の第一線で勤務された。戦時中の神戸空襲の際には、大きな被害を受け、悲惨な情景のもとで救護活動を続けた。また、国鉄時代には、昭和30年の「紫雲丸事故」(犠牲者168名)のとき、徹夜で救護にあたった。このような悲劇と遭遇する一方で、助産師として、いのちの誕生に立ち会い、とりあげた赤ちゃんは千人を超え、地区の赤ちゃんだけでも百人はいた、とのことである。このように、日々「いのち」と直面した緊張した勤務だった、と話された。退職後は、生涯学習とボランティア活動を実践され、多彩な趣味の世界の中で生きがいを見出された。平成8年から、高松市老人大学(1年；高松市)、引き続き、かがわ長寿大学(2年；香川県)において、歴史、文化、民俗、健康、福祉など、幅広い科目を履修され、その成果を老人会のお世話など地域の福祉活動に活かしてこられた。

【元気の秘訣】

国鉄を退職後、高齢者の認知症予防に、手先を動かし、物をつくるのが有効であると考え、ボランティア活動として、弦打公民館(当時)で高齢者編み物手芸教室を開いた。そこで、生徒達と共につくることの喜びを感じ、諏訪さん自身も生きがいを大きくふくらませていった。手芸の素材として、

ありあわせの毛糸やビーズのほか、小石や草花、鳥の羽、ビニールの紐などを用いて、これらにアイデアを加えて作品に仕上げているのがとても楽しい、と話された。生徒や老人会の人達と作ったかぎ針編みの座布団やクッションなどは公共施設や無人駅の待合室などに寄付してきた。

諏訪さんが郷土史に強く興味を持つようになったのは、弦打小学校校長(第23代)を勤められた坂本三郎氏の影響が大きかった。坂本氏が転任された後は、自ら資料蒐集にあたることに、鬼無や香西地区の郷土史研究会には積極的に参加するなどして勉強を続けた。その過程で、弦打風土記の改訂・増補版の出版への思いを強くしていった。

【生活信条・人生観】

諏訪さんの生活信条は、「もったいない」ということではないかと思う。

- ・物や食べ物を粗末に扱うのはもったいない。
- ・時間を浪費することはもったいない。
- ・(何ごとにおいても)頭を使って知恵やアイデアを出さないのはもったいないもったいない。

【一つのエピソード】

諏訪さんが郷土史に造詣の深いことは先にふれた。取材中のことであるが、檀紙の「大將軍(だいじょうご)」地区の地名の由来を著した小坂のMさんと、長寿大学で一緒だったことから話がはじまった。地名の由来に続いて、香西氏の出自や、飯田三城のこと、コミュニティセンターでの発掘調査のとき、十一面観音像(念持仏)が出土したこと、さらに、出土したすぐそばで、大量の湧水があったことなど次々に話が広がっていった。「湧水は香東川の伏流水ではないか」と質問すると、讃岐生駒藩の時代、家臣の西嶋八兵衛が、当時支流だった現在の香東川に水路を付け替えた話(注)へと発展していった。この間、取材チームのメンバーは、郷土史を学ぶ学生のごとく、神妙に講義を受けていた。

(注)当時、香東川の本流は、旧高松市内を經由し、海に注いでいた。しかし、本流側は大雨のとき、たびたび氾濫するので、これを廃し、支流側に水路をつかえる必要があった。

【取材：大久保典恵 早馬みどり 片桐和恵 松下邦雄】

弦打地区戦没者追悼式

平成24年11月3日(日)

戦後67回目を迎えた終戦の年、弦打地区戦没者追悼式を飯田町岩田神社内、巖玉神社にて開催しました。当日晴天にめぐまれ、50名に近い参加者のもと挙行了しました。さきの大戦において、かけがえのない命を失った167名の追悼を厳粛に行う事が出来ました。

弦打地区遺族会 会長 鈴木喜弘
婦人部長 村上登貴子



弦打地区 学習発表会

平成24年度 弦打地区地域ふれあい交流事業 文化祭

11月4日(日)午前9時、弦打小学校体育館において開会式。

開会宣言のあと、弦打地区地域ふれあい交流事業実行委員会 会長挨拶に続いて、来賓を代表して高松市地域政策課長佐々木様の挨拶、地元市議会議員の紹介がありました。今年の幕開けは半田自治会・子供獅子保存会による獅子舞、水田流五段のカネ太鼓で賑やかに開会されました。

1番はかわいい弦打幼稚園・保育所の4才児、続いて5才児の手話を交えたうた、そして大正琴によるなつかしく哀愁にせまるメロディー。舞踊、民謡、コーラスは、弦打小学校・勝賀中学校・コーラスめだかの学校と続きます。ダンス2組と締太鼓で午前の演目は終り、午後は大正琴で始まり、カラオケ4組、太極拳2組、ハーモニカ、手品、フラダンス、キッズダンスでフィナーレとなりました。

出演された皆さんは一年間一生懸命研鑽され、待ちに待った1日でしたでしょう。又、来年に向けて学習に励んで下さい。



作品展・バザー など



11月3・4日、秋晴れの天候に恵まれ、高松市弦打コミュニティセンターを主な会場に開催されました。

1階の保健委員会による健康相談、和室は生花と老人会、自治会それぞれ趣向を凝らしたかわいらしい作品が並べられ、2階ロビーでは着物リフォーム作品、大会議室では各同好会の絵手紙、木目込み人形、書道、地域で習っている方の陶芸・手芸、水道局のパネルが展示され、名物になっている水道週間の打ち上げ花火が思い出されます。

小会議室では、小学生の図画工作、写真、今年初めてのアクリル画と水彩・油彩の絵画が展示されていました。どの作品も一年間の練熟のあとが窺われます。

屋外テントの下では、うどん・すしのバザーや、かりんとうのバザー、陶芸教室、ふれあい遊具・産直コーナーが設営され、子ども広場ではいろいろなゲームに興じる子ども達の楽しい声が響いていました。校区内の各種団体、ボランティアの方、ふれあい交流事業に関わった皆様、お疲れ様でした。

